

平成22年度 5月号



二中だより

◆校訓 まごころ

◆学校教育目標 明朗 向上 自主・自立

新座市立第二中学校

新座市野火止7-17-10

☎ 048(477)1212



教えるべきこと ～ならぬことはならぬもの～

校長 森田 和 憲

新学期をむかえてから1ヶ月がすぎようとしています。1年生は徐々に中学校生活に慣れてきた時期だと思えます。2・3年生は、上級生として、よき手本となる活動をしてきています。新入生との対面式や離任式での合唱や校歌は二中の伝統を引き継ぐすばらしいものでした。特に三年生はすばらしく、今年の二中を任せたと感じる強くなったものでした。

大型連休も終わり学校生活のリズムも本格化していきます。生活のリズムを取り戻し、学習に部活動に全力を挙げて言ってほしいと思います。3年生は、修学旅行を間近に控えるとともに、学校総合体育大会地区大会もあと1ヶ月後に迫っています。気持ちを引き締めて頑張っていきましょう。

会津の教え ならぬことはならぬもの

江戸時代、会津藩には、日新館という藩の学校があり、10歳になると入学することになっていました。日新館に入学する前の6歳～9歳の子ども達は、町の中で「什（じゅう）」という集まりをつくっていました。そこでは、ともに会津藩の武士としての心構えを学んだり、一緒に遊んだりしていました。

その「什」で教えられていた心構えとして「什の掟」というものがありました。

7つの掟を皆で唱えて必ず守るようにしていました。それは次のようなものです。

1. 年長者の言うことに背いてはなりません。
2. 年長者にはお辞儀をせねばなりません。
3. うそを言うてはなりません。
4. 卑怯な振る舞いをしてはなりません。
5. 弱い者をいじめてはなりません。
6. 戸外で物を食べてはなりません。
7. 戸外で婦人と言葉を交えてはなりません。

そして最後に

ならぬことはならぬものです

という言葉が付け加えられました。

「礼」の基礎や生き方の基本を教えるものとして、今も通用する言葉として言い伝えられています。

特に最後の「ならぬことはならぬものです」という言葉は、いろいろなことを考えさせられます。

守るべきことは必ず守る。いじめや暴力、卑怯なことは絶対にしてはいけない。

今の社会だからこそ、ぜひ教えなくてはいけない言葉ではないでしょうか。

